地数容着型分一ビス自己解偽票

- · 指定小規模多機能型居宅介護 (指定介護予防小規模多機能型居宅介護))
- · 指定認知症対応型共同生活介護 (指定介護予防認知症対応型共同生活介護))

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日 平成 20年 2月27日 事業所名 前山ホームらく楽 事業所番号 2373500145 記入者名 職名管理者氏名 三浦 ルミ子 連絡先電話番号 0569-43-1466

自己評価票

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)			
1.3	里念と共有					
	地域密着型サービスとしての理念	・『ひとり一人が主役』『地域の一員としての生活を支援します』等、独自の理念を全員が目に留まる所に掲げてい				
1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独 自の理念をつくりあげている	る。 ・「ひとり一人主役」という利用者主体の理念と共に、地域に根ざした理念を掲げている。 ・自己決定を大切にする、自立支援を図る、個別性を大切にする、家族との連携を大切にする、地域の一員としての生活を支援する等、5つの理念を持つ。 ・各行事に地域の方々にも参加して頂き、ホームの運営、状況、存在をアピールできている。 ・町内会にも入っており、行事等らく楽のパンフレットも配り、行事参加の中でホームの説明もしている。				
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	・日常会話又ミーティング等において把握できている。 ・利用者一人ひとりを大切にした支援を試み、できるだけ 話し合いの場を作るよう努力している。 ・日々の生活や職場でも理念を元に地域の方々と接し、利 用者にも接している。 ・職員会議を行い、より良い対応が出来るように話し合っ ている。 ・ホーム内に掲示すると共に、事業計画にも入れて、日々 取り組んでいる。				
	家族や地域への理念の浸透	・行事、運営推進会議において事業所の理念を伝えている。				
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・地域住民を含めた運営推進会議を行うと共に、地域の行事(盆踊り、一斉清掃等)へ積極的に参加している。 ・地域の行事参加や毎日の散歩、そしてらく楽の行事へ地域・家族の方に参加してもらうなど、常に取り組みへの協力を呼びかけている。 ・運営推進会議や行事を通し、家族の方や地域の方にも理念を理解してもらえている。 ・季節ごとの行事を通して、家族の方や地域の方々にも理念を理解して頂いている。 ・各行事に地域の方々にも参加して頂き、ホームの運営、状況、存在をアピールできている。 ・家族通信を届けて、日々の様子を伝えている。 ・運営推進会議などを通じて理解してもらえるよう取り組んでいる。				

		四月紀元の東京	ED	W12/47/17 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(取組んでい きたい項目)	
2 . 均	旦域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえ るような日常的なつきあいができるように 努めている	・道での挨拶に始まり、行事等への参加の呼びかけ等、積極的に行っている。 ・開所より8年経ち、近所の方からは常に野菜等の差し入れや、ちょっとした行事にも飛び入りで参加してもらえるような付き合いがある。 ・散歩を通じ挨拶を大切にし、又、グループホームへの来客も快く招いている。 ・散歩、行事等により隣近所との交流を大切にする。ホームへの来客も大切にする。 ・名行事に地域の方々にも参加して頂き、ホームの運営、状況、存在をアピールできている。 ・行事がある時は近所の方に声をかけ参加して頂いている。訪ねて着てくださる方に部屋にあがってもらい、お茶を飲んで頂いたりしている。 ・散歩などで外に出る時は、挨拶などをしたり心掛けている。		・今は帰宅願望が強い方もみえるため、離設の恐れもあり常に門を開けないが、今までのように常時門を開き、地域の方がいつでものぞいてくれるようにしたい。
	地域とのつきあい	・行事、防災、コミュニティ活動等への参加交流をしてい		
5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	る。・地域の盆踊りでは、参加が毎年恒例となっている。・盆踊り大会、年2回の地域清掃、コミュニティ活動などにすすんで参加している。・運動会や防災訓練、盆踊り等、行事には積極的に参加している。・地域の清掃活動、運動会、盆踊りなどに積極的に参加している。・各行事に地域の方々にも参加して頂き、ホームの運営、状況、存在をアピールできている。・地域の行事などに参加し、交流している。・地域の行事などに参加し、交流している。・盆踊りや地域の運動会などに参加し、交流を深めている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の一斉清掃やコミュニティのクリーン運動などに参加している。 ・日常的な付き合いの中で、旬の野菜を提供してもらったり、独居の方達に呼びかけ行事に参加していただいたり、区行事への参加交流をしている。 ・地域の年2回の清掃、年1回のコミュニティ活動への利用者との参加 ・気軽にグループホームへ来て頂き、楽しい会話やお茶等を出している。 ・近隣のお年寄りが気軽に立ち寄り、その際、相談等に応じている。		

		T		I
	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
3 . ¥	里念を実践するための制度の理解と活用			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	・毎年1度行い、助言項目には受容的に検討し職員全員で 改善に向けた取り組みを行っている。 ・全員が賞与のある月(1年に2回程度)自己評価や上司 からの評価を受けている。 ・自己評価、上司との面接により、仕事への取り組みを考 える。 ・外部評価後、改善点に関して話し合い、迅速に対応して いる。		・介護保険導入時の民家改修型のため、利用者に合わせた改築・増築を次年度の計画実施予定としている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	・日常の写真や行事、その他の報告など、必要時にパワーポイントも利用している。また、議事録はメンバー全員に配布し、会議の内容を業務に反映させる努力をしている。・パワーポイントを通しての利用者の活動状況の報告、ヒヤリ・事故の報告 ・年に4回程開催し、報告等はしている。・年に4回行っている。地域住民、家族へ報告を行い、理解を得ている。・都度行っており、利用者の状況等、実施毎にパワーポイントを利用し説明している。・行事や日常生活において、パワーポイントを用いて写真を見て頂いたり、その都度報告を行ったりして意見を求め、サービス向上に生かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	・日ごろから密に連絡を取り、状況の報告や業務の確認、 書類の提出等を行っている。 ・介護保険課だけでなく、利用者を通じ社協や生保等との 行き来もあり、サービスの質等について話し合う機会あ り。 ・介護認定審査会や行事等を通し、市との連携を図ってい る。 ・都度、報告・連絡する機会あり。 ・市からの依頼で認知症講演等実施。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人に はそれらを活用できるよう支援している	・現在1名の方が制度の必要性があり、活動支援している。 ・生活保護対象者の受け入れも行い、日常業務の中で学びの場が得られている。 ・今の職場でも成年後見制度を必要とされる利用者があった。 ・個々が専門性を磨くため勉強をし、研修等にも積極的に参加している。 ・研修への参加により専門的な知識・技術を磨く ・事業所全体の勉強会等で学習の機会あり。		・左記の制度に関わる利用者が出てきた場合のために、学習をもう少ししていかなければならない。 ・権利擁護に関する制度を学び、理解したい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	・法人内研修でも取り入れ、学習の機会を設けている。日常業務の中でも適宜虐待防止の意義について話し合っている。 ・事務所より委員会や勉強会もあり学習の機会は多々あった。 ・グループホームだけでなく、法人の中でも研修を行っている。 ・研修への参加により専門的な知識・技術を磨く。 ・入浴時の身体のチェック、職員の利用者に対する関わり方等、注意を払っている。 ・研修を行っている。		・高齢者虐待防止関連法について、もう少し学習 する機会をつくりたい。
4.理	l 念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者 や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説 明を行い理解・納得を図っている	・本人、家族、担当ケアマネ、職員及び管理者、施設ケアマネで今後について充分な話し合いの時間をつくっている。 ・契約前は、面接、見学等を重ね、必要時短期入所も行いながら慎重に進めている。退所に至るまでの経過を充分に本人・家族に説明・納得した上で行っている。 ・しっかりと説明をしたうえでの契約、解約の押印をしてもらっている。		
	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日々の生活の中で、積極的に利用者の意見を聞き出す働きかけを行い、可能な限り運営に反映させている。・苦情窓口の張り紙を玄関先に設け、いつでも目につきやすいようにしている。・介護記録への記入を行い、職員会議又は申し送りにて話し合っている。・利用者からの意見、苦情等を個人の介護記録に書き、ミーティング等で話し合っている。・契約時や運営推進会議等でしっかりと投げかけている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族来訪時や月1回郵送している家族通信、運営推進会議、電話連絡において必要な事を都度報告している。 ・家族通信を発行(1ヶ月に1回)し、何かあった場合にはその都度家族へ報告している。 ・運営推進会議、定期的に家族通信を送付している。又、健康面に関しては受診等毎に家族へ報告している。 ・家族通信や電話等で連絡している。 ・月に1回の家族通信や臨機応変に対応し、必要があれば電話連絡等をしている。 ・月1度の家族通信にて近況報告している。 ・家族通信として月1回、健康状態は変化があればその都度連絡している。又、金銭管理等も月1回、来訪時に確認・承認を頂いている。 ・毎月「家族通信」を家族に送り、利用者の日々の生活を報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、そ れらを運営に反映させている	・苦情対応窓口の設置及び運営推進会議において、発言の 場を設けている。 ・運営推進会議を行っている。 ・運営推進会議や面会等、いつでも話を聞ける状態である。 ・運営推進会議や面会等を通し、不満、苦情があれば言っ てもらえる関係にある。 ・施設内に苦情窓口があり、いつでも相談にのれるように している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の 意見や提案を聞く機会を設け、反映させて いる	・日常会話やミーティングにおいて話し合い、反映させている。 ・職員会議を行ったり面接を行い、職員の思いなど聞く機会を設けている。 ・月1回の職員会議にて話を聞いてくれる環境である。 ・月1回のミーティングを主に、随時話しを聞いてくれる。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員 を確保するための話し合いや勤務の調整に 努めている	・状況に合わせた勤務状態にしている。 ・ボランティアの協力もあり、必要最低限ではあるが確保 はできている。 ・ボランティアの方の協力により調整、確保はできてい る。 ・その日の流れを見越し対応可能な勤務状態になるよう努 めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者へのダメージを防ぐ配慮は出来ているが、その分職員への負担が多い時がある。 ・日常会話やレクの際に、紹介や説明をすることで利用者への情報提供をしている。		
5.,	人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて 育成するための計画をたて、法人内外の研 修を受ける機会の確保や、働きながらト レーニングしていくことを進めている	・法人内研修や外部研修等、多く学べる機会を作っている。又、OJTも勧めている。 ・施設内研修が全体会議時に組まれている。 ・施設外の研修の案内もその都度提示され、希望すれば受けれるようになっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者 と交流する機会を持ち、ネットワークづく りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、 サービスの質を向上させていく取り組みを している	・連絡協議会に入会・参加し、各委員会にも積極的に参加している。 ・相談委員会(南部地区)の意見交換会等へ参加し、交流をはかっている。 ・法人内の研修や交換研修等を行い、サービス向上を目指す取り組みをしている。 ・内覧会などを通し交流の機会をみつける努力はあるが、なかなか現在には難しい。		・グループホームの場合は少人数で不規則な勤務のため、他事業所との交流も少ない。是非、地域との交流を持ちたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽 減するための工夫や環境づくりに取り組ん でいる	・仕事以外に食事会等の機会を作り、又、希望者は法人内のストレスケアにも参加している。 ・面接を行い、職員の思いを聞きアドバイスをしてくれている。 ・ストレスケアを行ったりして、ストレスの軽減に取り組んでいる。 ・ストレスケアが定期的に設けられ、希望すれば受けられるようになっている。 ・ストレスケアを取り入れている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	向上心を持って働き続けるための取り組 み	・法人内各委員会参加、自施設内でのミーティングや行事等を通じ、チームワーク作りをしている。 ・人事考課表、業務管理シート、面接。 ・人事考課は年2回、希望・相談等1次・2次面接形式で実施。		
	運営者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、各自が向上心を 持って働けるように努めている	大院 (実) にも勤勉手当等もあり、向上心を持たせる働きが見られる。 ・人事考課の面接などで個々が働きやすいように意見等も 聞いてもらえる。 ・年に2回の上司との面接。		
.3	そ心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1 . 框	目談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・できるだけ利用者・家族が困ってる事、不安な事を聞き、体験してもらい無理な入所に持ち込まない。 ・コミュニケーションをとり、話す機会をたくさん作っている。相談や困った事があった時には、管理者・職員に知らせる様にしている。 ・家族も含め、見学時、面接時、十分に時間を確保し、話を聞くようにしている。 ・バリデーションをしっかり行いコミュニケーションをとり、本人の困っている事等、その都度聞き、対応している。		
	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っ ていること、不安なこと、求めていること 等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努 力をしている	・できるだけ利用者・家族が困っている事、不安な事を聞き、体験してもらい無理な入所に持ち込まない。 ・家族も含め、見学・面接時に十分時間を確保し、話を聞くようにしている。 ・初めの契約等でしっかり説明し、家族からの要望や困っている事も聞く体制を作っている。		
	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その 時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族、ケアマネ(居宅・施設)等を含めた話し合いを重ね、サービス利用を提案している。 ・担当のケアマネも含め、現在問題となっている部分を話し合い、当ホームだけでなく、他のサービスで対応できる部分については担当ケアマネへ依頼し対応している。 ・個人に合ったサービスを家族の方、利用者も含め工夫している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人、家族、ケアマネ(居宅・施設)等を含めた話し合いを重ね、サービス利用を提案している。 ・体験後、本人・家族の意見や要望を聞く機会をつくり、できる限り工夫している。 ・すぐに本入所していただくのではなく、短期入所の形をとり、ご本人や家族の方が納得されてから契約手続きをとっている。 ・本入所前に見学をご本人、家族と行ってもらい、その後ショートステイでお試し期間を設け、納得して頂いた上で本入所の運びをとっている。 ・個人に合ったサービスを家族の方、利用者も含め工夫している。		
2.亲	折たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に おかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共 にし、本人から学んだり、支えあう関係を 築いている	・得手を見つけ、残存機能を発揮できる機会を作っている。 ・朝や夕方の着替え時、一緒に手作業している時間に今までの生活暦が出て来ることが多い。 ・散歩したり、一緒に食事を作ったり、常に一緒に過ごしながら関係を築いている。 ・利用者と共に同じ作業、同じ時間を過ごすことで信頼関係を築いている。 ・残存機能を活かした対応をし合える、支えあう関係にある。 ・自分のできることは過剰に介護したりせず、残存機能を活かした対応をし、支えあう関係ができている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に おかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を 支えていく関係を築いている	・面会時だけでなく、家族通信等で行事への参加も呼びかけ、相談事もしっかりと聞いている。 ・家族通信や電話などで利用者の近況を知らせている。 ・できる限り利用者の様子をご家族にもお伝えし、利用中の状況を把握して頂くようにしている。 ・面会、外出等を通しその時間内にあった出来事を聞き、 共に支えあう関係ができている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に 努め、より良い関係が築いていけるように 支援している	・面会時だけでなく、家族通信等で行事への参加も呼びかけ、相談事もしっかりと聞いている。 ・家族への声かけを家族通信や電話等でしており、ご家族の理解をあおげるようにしている。 ・職員が時に、家族と本人の仲立ちとなり、円滑な関係が持続できるようにしている。 ・手紙、電話等を通じ、誕生日やお盆等の面会、外出を促し、本人と家族との関係を保つち援をしている。 ・日々変化する認知症症状について、家族と共に勉強し理解していくことができるよう働きかけ、利用者との関わり方についても話し合い、対応できるよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないよう、支援 に努めている	・本人や家族からの情報を大切にし、積極的な交流を支援している。 ・ご家族の協力のもと、ご本人の意志も尊重しつつ支援に 努めている。 ・生活暦を把握し、日ごろから会話に馴染みの人や場所を 盛り込むようにしている。 ・今まで大切にしてきたタンス、人形等馴染みの物は持ち 込んでもらい、気分が良くなるよう努めている。		
	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとり が孤立せずに利用者同士が関わり合い、支 え合えるように努めている	・利用者同士が交流できる機会を作り、個人に合ったより 良い関係作りに努めている。 ・利用者同士が仲良く関われる様努めているが、声かけし てもできない人もいる。 ・職員が仲立ちとなり、円滑な関係が築けるようにしてい る。又、部屋の配置等も配慮している。 ・レクリエーションに参加してもらい、交流を深めていた だく。 ・他者とのコミュニケーション不足の方にもレクリエー ションに参加してもらい、グループの輪に入ってもらって いる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継 続的な関わりを必要とする利用者や家族に は、関係を断ち切らないつきあいを大切に している	・本人や家族との関係を大切にし、必要な交流を継続している。 ・利用サービスがかわっても、ご本人ができるだけ継続的関わりを必要とされている場合、他利用者との交流を続けている。 ・利用終了後も、その後利用しているサービス機関等からの情報収集をしている。 ・契約が終了しても、行事の参加や来訪も快く受け入れている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネ -人ひとりの把握	ジメント		
	思いや意向の把握	・できる限り利用者本人の意見を聞き入れ、支援している。 ・本人の希望に添えるよう努力し、職員間での話し合いも		
33	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意 向の把握に努めている。困難な場合は、本 人本位に検討している	している。 ・本人の希望に合うように職員間にて話し合いをしている。 ・利用前に本人・家族等からの情報収集により、以前の暮らしのパターンに近づけるよう努めている。 ・コミュニケーションをとり、思いを聞くように努めている。 ・現在の生活への不満、不自由がないかスタッフの聴き取りを記録に明確にし残す。 ・本人と話す時間が持てている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用の 経過等の把握に努めている	・本人、家族、ケアマネ(居宅・施設)等とのコミュニケーションを図り、情報収集・本人把握に努めている。 ・利用者の記録をスタッフ全員で共有し把握している。 ・利用前に十分アセスメントし、これまでの暮らしに近づけられるよう努力している。 ・個人記録を読んだり、本人に昔の事を聞いたり、上司に聞いたりしながらわかる様に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・様子観察は一人ひとり気をつけ、常時行っている。 ・様子観察、見守り、声かけを行っている。 ・利用前に十分アセスメントし、これまでの暮らしに近づ けられるよう努力している。 ・申し送りを聞き、一人ひとりの様子を見ながら現状を把 握する様努めている。 ・AM中はレクリエーション等で参加された時、食事時間等 の様子、入浴時の心身チェック等そ記録や申し送りしてい る。 ・日々の会話や行動、心身状態を個人記録に記載し、確認 を行っている。 ・ケアプラン等を確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
2.2	ト人がより良〈暮らし続けるための介護計画の作 り	成と見直し		
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケア のあり方について、本人、家族、必要な関 係者と話し合い、それぞれの意見やアイ ディアを反映した介護計画を作成している	・本人、家族、ケアマネ等を含めた話し合いを重ね、サービス計画を提案・作成している。 ・面会を促したり電話で状況を話したりする他、医療関係者とも密に話し合っている。 ・主治医への連絡、受診など密な関係を持っている。 ・ミーティング等で積極的に話し合い、家族・本人の意見を反映しながら計画作成している。 ・ミーティングを通して、現状に応じての個人ケアの検討会がなされている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うと ともに、見直し以前に対応できない変化が 生じた場合は、本人、家族、必要な関係者 と話し合い、現状に即した新たな計画を作 成している	・本人、家族、ケアマネ等を含めた話し合いを重ね、サービス計画を提案・作成している。 ・現状に即した計画を行うと共に家族の方の同意ももちろんとっている。 ・現状に即した対応と、家族の方々の同意も得ている。 ・現状に即した対応と、家族の方々の同意も得ている。 ・3ヶ月毎の計画見直しを、都度現状が変化した場合は、 3ヶ月に満たなくても追加・見直しを行っている。 ・急激なレベル低下などには、即見直しがされている。内容はどのスタッフもしっかり把握できるよう努めている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づき や工夫を個別記録に記入し、情報を共有し ながら実践や介護計画の見直しに活かして いる	・日々の会話や行動、心身状態を個人記録に記載し、確認を行い共有している。 ・毎日個別の介護記録に記入し、情報を共有している。 ・毎日、介護記録への記入、又、確認・申し送りなどをして情報を共有している。 ・その人の状況がわかりやすいよう、又状況把握がしやすい記録になるよう努めている。 ・個別記録を記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 ・個別記録の内容をできるだけ的確に記入し、スタッフの誰が見てもわかるような記録に努める。 ・毎日の気づき等を個別記録に記入している。		

			T	
	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
3.∄	タ機能性を活かした柔軟な支援			
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応 じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な 支援をしている	・本人、家族、ケアマネ等を含めた話し合いを重ね、サービス利用を支援している。 ・状況に対応した要望に応えられるよう支援している。 ・事業所の他部署がやっているレンタルサービスやデイサービスでの焼物教室への参加。		
4.2	・ ▶人がより良〈暮らし続けるための地域資源との†	高働		
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員 やボランティア、警察、消防、文化・教育 機関等と協力しながら支援している	・ボランティアの方の協力も得ながら、区長、民生委員、警察、消防、文化・教育機関との交流も行っている。 ・ボランティアの方も多く、他の機関の方とも協力し支援している。 ・ボランティアの方々が多い。 ・必要機関の協力が得られるよう情報提供をしている。 ・警察 徘徊時の保護依頼(全員顔写真) ・消防 避難訓練、消火、炊き出し ・文化教育 職業体験・ボランティア受入、文化祭・体育 祭への招待 ・行事や運営推進会議、中学生の夏休み体験学習、入所者 リストを配っての警察などへの協力。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・本人、家族、ケアマネ等を含めた話し合いを重ね、情報 提供やサービス利用を提案・支援している。 ・もともといた施設の担当の方にも協力してもらい、さま ざまな情報を得ている。 ・本人の状況を把握した上で、必要時、必要なサービス機 関との連携がとれている。 ・利用者が元利用していた他事業所のケアマネ等とは定期 的に情報交換をしており、ご本人により良いサービス利用 の支援に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護 や総合的かつ長期的なケアマネジメント等 について、地域包括支援センターと協働し ている	・運営推進会議や行事への参加を依頼し、また、必要時情報提供を行うことで、施設内の把握をして頂き助言頂いている。 ・交流の場での情報交換は行っている。 ・常にこちらの情報を入れ、指導をあおいでいる。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	かかりつけ医の受診支援	・月1回の往診、又は家族との3者受診等の支援体制作りをしている。 ・あくまでご家族の希望やかかりつけ医との連携を大切に		
43	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	している。 ・月1回の往診がある。 ・常にかかりつけ医を確認し、往診も月に1度行ってもらっている。 ・これまでのかかりつけ医との関係性を把握し、持続させている。状況に合った受診も都度行っている。 ・家族の了解も得てかかりつけ医が決まっている。		
	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築 きながら、職員が相談したり、利用者が認 知症に関する診断や治療を受けられるよう 支援している	・月1回の往診、又は家族との3者受診等の支援体制作りをしている。 ・受診の際には現場スタッフも入り、個々の記録と経過をしっかり把握した上で治療を受けられるようにしている。・認知症に詳しいドクターからの指示や、研修等も行っている。・本人の状況、家族の希望に合った医療機関を選択し、対応している。必要に応じ、Dr.への情報提供も行っている。・心療内科や精神科を受診し、その際職員が同行・相談している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域 の看護職と気軽に相談しながら、日常の健 康管理や医療活用の支援をしている	・月1回の往診、又は家族との3者受診等の支援体制作りをしている。 ・グループホーム内に看護職員もいるし、法人内の看護職員にも協力を得ている。 ・在勤の看護師による健康管理を行っている。 ・らく楽に看護職員がいる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせる よう、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備 えて連携している	・家庭医として契約頂き、月1度の往診、検査、指導や情報提供などにより、連携・協力をして頂いている。 ・ケアマネを通し、病院との連携をとっている。 ・入院したときのマニュアルやターミナルケアの研修も取り組んでいる。 ・入院になる際は、サマリーの提出等で情報提供している。 又、入院中も、状況把握のため病院へ出向き、病院関係者から情報収集している。 ・効力病院との3者協議、早期退院に向け情報提供・相談に努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入所時に『事前指定書』を記入して頂き、本人、家族の情報・意見を提示して頂いている。 ・ご本人、ご家族の希望を聞き、しっかりとかかりつけ医と話し合い、スタッフがどこまで援助(ケア)できるのか話し合いの場を持っている。 ・ターミナルケアについての知識も学ぶ機会を設け、又、家族の方との話し合いもしっかりできるようにしている。 ・ご本人と家族の意志を口頭、書面で確認し、全員でケア統一に努めている。		
48	暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでい	・自施設で可能な範囲や、必要なサービス・医療などを提示することで、出来る限り本人・家族の意向に沿ったケアを提供している。 ・ご本人、ご家族の希望を聞き、しっかりとかかりつけ医と話し合い、スタッフがどこまで援助(ケア)できるのか話し合いの場を持っている。 ・日々をより良く過ごせるよう協力し、本人の自己決定を大切にした支援をしている。 ・ホームで出来る事・出来ない事を職員間で話し合い、家族・本人に説明し納得して頂いた上でケアを行っている。その間、かかりつけ医とも十分連携が取れるよう情報提供している。 ・かかりつけ医や家族に相談しながら職員間でも検討・話し合いをしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	・十分な話し合い、納得のもとでダメージのないよう努めている。 ・別の居所への移り住みについても本人、家族の方ともしっかり話し合いをし、お互いの同意のもと行っている。 ・ケアカンファレンス等に参加し、情報提供している。 ・本人、家族、ケアマネ等を含めた話し合いを重ね、情報 提供やサービス利用を提案・支援している。		

		T		
	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	その人らしい暮らしを続けるための日々のま	₹援		
1	その人らしい暮らしの支援			
(1)	一人ひとりの尊重			
	プライバシーの確保の徹底	・それぞれの利用者に合った声かけを常に考えている。・一人ひとりのプライバシーを大切にしている。		
50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・一人一人のプライバシーを大切にし、秘密保持をしっか り守っている。 ・生活暦を把握した上で、その人に合った対応をしてい る。 ・プライバシーの保護に努めている。 ・個人に合わせた対応を心がけている。		
	利用者の希望の表出や自己決定の支援	・出来るだけ早目に行事予定や外出予定、ご家族との外出 予定などを話し、ご本人はどうしたいのかを前もって聞い		
51	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	でおく。 ・本人の話を最後まで聞き、その後で納得できる話をすることができている。 ・わかりやすい内容で、噛み砕いてその人に合った方法で説明し、納得頂いている。 ・日々の会話や個人記録、個人情報、ケアプランを元に、個人の力量に合わせた対応・支援を行っている。 ・やわらかい言葉で表現し、納得してもらったり判断してもらっている。		
	日々のその人らしい暮らし	・朝のレクリエーション時、入浴の時間の声かけはさせてもらうが、できるだけご本人の希望に沿って過ごしてもらっている。 ・無理を押しつけない。自由に過ごして頂いている。		
52	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりのペースに合わせ、無理を押しつけないケアをしている。 ・生活暦、年金を考慮し、共同生活でありながらも個々のペースを重視している。 ・日々の会話や個人記録、個人情報、ケアプランを元に、必要時には家族の協力を得ながら、可能な限り本人の希望に沿った対応・支援を行っている。 ・本人の体調や気分を考慮し、毎日を過ごしている。		

		T	1	7
	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活	の支援		
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・ご家族がみえた際に美容院等の利用をどうするか伺い、本人の希望で日程を決めている。 ・本人の身だしなみをなるべく尊重し、理髪等も家族の方の協力を得て、自由に行ける体制をとっている。 ・入居時、今まで使っていた服や化粧品等持ち込んでもらい、使用して頂いている行きつけの美容院がある場合は、ご家族の協力を得ながら通ってもらっている。 ・日々の会話や個人記録、個人情報、ケアプランを元に、必要時には家族の協力を得ながら、可能な限り本人の希望に沿った対応・支援を行っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひ とりの好みや力を活かしながら、利用者と 職員が一緒に準備や食事、片付けをしてい る	・出来ること、出来ないことを見極め、ケアプランに乗せた自立支援を実施している。 ・好きな食べ物を聞いたり、一緒に準備や食事、片付けをしている。 ・利用者の生活力を見極め、できることは積極的に参加して頂き、利用者の意見も取り入れながら作業している。 ・できることは自分でやるよう支援し、食事もどうしても嫌いな物があったら代替も用意している。 ・その人が出来ることで食事の準備に携わってもらっている。 ・利用者に声をかけ一緒に準備、片付けをしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・出来ること、出来ないことを見極め、ケアプランに乗せた自立支援を実施している。 ・コーヒーや紅茶を飲んでもらったり、ケーキやお饅頭などを出し楽しめるよう工夫している。 ・健康を脅かす嗜好品についてはなるべく避けるようにしている。 ・本人の状況に合わせて、最大限自己決定を大切にしている。 ・自己決定にて行っている。 ・利用者の好みの食事やおやつを作り楽しめるようにしている。		・タバコを楽しみたいと言われることをどのよう な方法で支援すればよいかミーティングでも検討 しているが、家族からの反対もあり対応が難し い。

	項 目	取り組みの事実	印	取り組んでいきたい内容
	項 目	(実施している内容・実施していない内容)	(取組んでい きたい項目)	(オでに取組んでいることも合む)
	気持よい排泄の支援	・変化があればその都度ケース検討し、プラン変更しながら自立支援・対応をしている。		
56	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一 人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活	・排泄パターンを把握し、本人の声、動きなどに気をつけトイレ誘導する。 ・排泄パターンを把握し、出来る限り自立できるよう支援している。 ・排泄による不快感(失禁等)を取り除けるよう努めている。		
	かして気持ちよく排泄できるよう支援して いる	・やむを得ない場合のオムツ使用を除き、なるべく普通の 人と同じ下着等をつけてもらっている。 ・個人記録に排泄チェック表が設けられ、職員ができるだけ同じケアができるよう、又、ご本人に良い排泄ケアが何かを常に考えている。 ・排泄パターンを理解し、トイレ誘導している。		
	入浴を楽しむことができる支援	・パイタル測定により健康状態を把握し、可能な限り本人 の希望に沿ったケアを行っている。 ・利用者の状況等で、入浴する順番、湯温等調節してい		
	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの希望やタイミングに 合わせて、入浴を楽しめるように支援して いる	る。 ・夏は汗をかくので毎日入浴をしてもらったりと臨機応変に行っている。 ・季節に応じての入浴を行っている。 ・日中の入浴に関しては、どうしても全員の希望に合わせることは難しいかもしれないが、夏など日が長くシャワー浴の場合は、ご本人に合わせ、又、時間を考慮し楽しんでもらうこともできる。 ・一人ひとりのタイミングに合わせて入浴している。		
	安眠や休息の支援	・日中の活動により昼夜のメリハリをつけた生活習慣を支援し、なるべく薬剤に頼らない睡眠を心がけている。		
	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況 に応じて、安心して気持ちよく休息したり 眠れるよう支援している	・本人の希望を聞き、ゆっくり眠りたいという方には、お部屋でゆっくりと過ごしてもらい見守る。 ・生活パターンに合わせ、それぞれのペースに合わせて休息・就寝してもらっている。 ・自己決定を最大限にし、その人に合った安眠や休息をとってもらっている。 ・自己判断にて休んで頂いている。 ・さ本人の意見・状況を重視し、支援している。 ・エアコンや電気毛布を使い、気持ちよく眠れるよう環境作りをしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活	の支援		
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした 役割、楽しみごと、気晴らしの支援をして いる	・日々の会話や個人記録、個人情報、ケアプランを元に、必要時には家族の協力を得ながら、可能な限り本人の希望・力量に合わせた対応・支援を行っている。 ・洗濯物をたたむ、茶碗を洗う・拭く、縫い物をしてもらうなど、個々の力に合わせた役割を支援。誕生会、行事、外出などの実施。 ・生活暦と共に、今出来ることを見出し、出来る限り生活に必要な家事等には参加していただいている。 ・毎日のレクリエーションを通して楽しみを分かち合ったり、散步で気晴らし等も行っている。 ・希望を取り入れた誕生会、季節折々の外出、ご本人の買い物、気分転換目的のドライブなど1人1人に合わせた支援をしている。 ・得意分野が活かせるように作業を手伝って頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さ を理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	・日々の会話や個人記録、個人情報、ケアプランわ元に、必要時には家族の協力を得ながら、可能な限り本人の希望・力量に合わせた対応・支援を行っている。・管理能力のあり方には、小銭程度を自己管理していただいている。・大金ではないが本人の納得いくお金を持ってもらうこともしている。・ご家族とも話し合い、ご本人が最低限必要とされる額のお金を所持されている方もあるし、ご本人の希望で管理させてもらっている財布より希望額(使用目的に応じ)出す場合もある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	・日々の会話や個人記録、個人情報、ケアプランわ元に、必要時には家族の協力を得ながら、可能な限り本人の希望・力量に合わせた対応・支援を行っている。 ・職員が外出する際、一緒に出かけたり、散歩も天候が良い日は日課的に実施している。 ・毎日の散歩の他にも天気が良ければドライブにも出かける。 ・散歩に出かけている。 ・希望に沿って一緒に買い物へ行ったり、ドライブに行ったりしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
6	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・日々の会話や個人記録、個人情報、ケアプランわ元に、必要時には家族の協力を得ながら、可能な限り本人の希望・力量に合わせた対応・支援を行っている。・季節の花を見に出かけたり、みかん狩りに出かけたり、外食に行ったりと支援している。・家族や本人の希望で、外出はして頂いている、又、季節の行事としてぶどう狩りやみかん狩り等行っている。・本人の希望や家族の方との外出も含め、個別性を大切にしている。・季節折々の外出計画が年間計画に組まれていること、またご家族の誘いで定期的に外出される方もあり、支援している。・季節に合った行事計画を立て、利用者や家族と外出している。		
6		・日々の会話や個人記録、個人情報、ケアプランを元に、必要時には家族の協力を得ながら、可能な限り本人の希望・力量に合わせた対応・支援を行っている。 ・本人の希望により、電話を利用してもらっている。 ・ご本人が希望される際、支援している。 ・本当に必要な場合には自己決定を大切にし、支援している。		
6	4 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・挨拶やお茶だしの際には本人だけでなく、職員も積極的に関わり、気軽に話しかけられる環境作りを心がけている。 ・お部屋でゆっくり過ごしてもらったり、リビングで過ごしてもらったり、居心地良くいられるよう気をつけている。 ・入居時、積極的に面会して頂くよう説明している。ゆっくり面会できるよう、時間制限は極力していない。・職員一同、誰が来も大く迎え入れている。・・ 誰が来訪されても快く却えできている。・・ ご自分の部屋でゆっくり話しされるのも良し、また、リビングで他の利用者の方と話しされるのもよし。気軽に訪問してもらえるよう支援している。・ 部屋の清潔に心掛け、お茶だしなどしている。		

		I		T
	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
(4)	安心と安全を支える支援			
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	・法人内、及び外部研修において学習する場を設けたり、職員同士情報共有し、理解に努めている。 ・身体拘束は行っていない。 ・身体拘束が必要な人もいないし、基本的な事なので誰も することはない。 ・事業所の勉強会に参加し、実践している。 ・定期的に研修を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・危険、事故等を考え、必要な場合は鍵をかけることもある。 ・昨年末より利用者に帰宅願望の強い方がみえるため、鍵をかけざるを得ない状況である。 ・帰宅を訴え離設をされてしまうので鍵をかけてしまう。 ・職員の人数やお年寄りの状況で鍵をかけてしまう時がある。 ・"鍵をかけないケア"について理解できているが、現在、興奮状態で離設の危険がある利用者がいるため、やむを得ず施錠している。 ・外に出て2m近くある柵を乗り越える利用者おいるので、たまに鍵をかけなければならない時もある。 ・離説の危険がある場合、日中でもやむを得ず玄関の鍵をかける事がある。		・鍵をかけなくても対応できる様、職員人数を増 やす。不穏にならぬよう集中して取り組めること をみつけてあげたい(あみものなど)。 ・興奮状態にある利用者の精神的安定を内服及び 関わりで軽減できるよう取り組んでいる。 ・外の柵を高くし、なるべく家の中と外を自由に 行き来できるようにしたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しなが ら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握 し、安全に配慮している	・昼には職員同士又は家族との連絡を密にとり、夜間は適 宜巡視を行うことで、利用者の状況把握に努めている。 ・転倒などの防止の為、様子観察、見守りを行う。 ・職員が声をかけあいながら利用者の所在や様子に気をつけている。 ・職員間で声をかけあい、利用者の所在を明らかにしている。 ・昼は約3人、夜勤は1人で対応しているが、できる限り 安全に配慮してもできない時もある。 ・常に所在確認し、安全に配慮している。		・職員一同の能力を上げ、安全に配慮できるよう努める。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
	注意の必要な物品の保管・管理	・ケアプランや日々の記録から本人の状況を把握し、又、 ヒヤリハットや自己報告書を元に、外部評価からの情報を 参考に利用者個人に合わせた安全な環境整備に努めてい る。		
	注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	る。・・		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	・ケアプランや日々の記録から本人の状況を把握し、又、ヒヤリハットや自己報告書を元に、外部評価からの情報を参考に利用者個人に合わせた安全な環境整備に努めている。 ・職員が声をかけあいながらお年寄りの状況を把握し、事故防止に取り組んでいる。 ・起こりうる事故等に関しては、職員間で話し合い、防止に努めている。 ・できる限り取り組んでいるが、夜間等職員が1人の時はやはりできないこともある。 ・職員間で話し合いや連携を取り、事故防止に取り組んでいる。		・薬を飲んでもらう時、1人の職員が責任をもって飲ませるよう努めている。 ・事故が万が一発生してしまった時の対応について、もう少し知識を向上させる必要があるため、 知識の向上と職員一同の意識を変えていくよう取り組んでいる。
	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	・法人内研修や外部研修に参加し学習し、また、施設設備の設置場所や使用方法の確認を行っている。 ・事業所の年間計画に組まれており、自主的に参加できるようになっている。 ・マニュアルがある。 ・起こりうる事故に関しては、職員間で話し合い、防止に努めている。 ・研修等を通し、勉強しているができるかどうかは不安である。 ・研修を行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
	災害対策	・年2回の避難訓練や炊き出しの際には、消防署への連絡と協力、家族への参加呼びかけ等を行い、運営推進会議の際に報告している。		
71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・区防災訓練や行事等への参加を行い、連携体制の働きかけを行っている。 ・避難訓練を行っている。 ・年1回避難訓練を行っている。 ・定期的に避難訓練を実施、また、地域の避難訓練にも参加している。 ・避難訓練や緊急連絡網も作成し取り組んでいる。 ・定期的に非難訓練を行っている。		
	リスク対応に関する家族等との話し合い	・本人、家族、ケアマネ等を含めた話し合いを重ね、情報 提供やサービス利用を提案し、計画を立案している。 ・転倒防止などのため他の利用者家族の工夫を説明し、ご 家族の判断で対応してもらった例がある。		
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	・ヒヤリハットの提出により再発防止に取り組んでいる。 ・その都度家族へ連絡している。 ・今後起こりうるリスクについて、早期に家族へ説明し、 理解いただいている。 ・ヒヤリハットやリスク委員会等でしっかり対応・改善し ている。		
(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気付いた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	・日常会話やその時の表情、個人記録、個人情報を元に、必要時には家族の協力を得ながら、可能な限り本人の状態に合わせた対応・支援を行っている。 ・個人記録、業務日誌、申し送り等にて毎日の体調変化に速やかに対応できるよう努力している。 ・声かけや様子観察、又、入浴時での身体チェックにより申し送りし、情報を共有する。 ・職員の連帯がとれていて、申し送りによりきちんとした対応ができている。 ・在勤している看護師へ体調の変化を申し送り、必要時、医療機関へ早期に受診し対応している。 ・様子観察は常に行い、入浴での身体状況等、変化のあった場合は「報・連・相」を心がけている。		
		た場合は「報・連・相」を心かけている。 ・職員間で情報を共有し、必要があれば受診する。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確認に 努めている	・個人の服薬をわかり易く収納・記名し、それぞれの服薬 内容を一覧にしている。また、処方箋の収納場所を全職員 が把握している。 ・かかりつけ医より処方箋個人一覧表ファイルがあり、ま た看護師作成の個人別マニュアル表もある。個人記録や業 務日誌等にも症状の変化による薬の支援法等、誰でも確認 できるようになっている。 ・利用者と声を掛け合い、職員同士確認して行っている。 ・薬が変更したときなど、申し送りがあり、確認できるようにしている。 ・利用者の内服内容を一覧表にし、わかりやすくしてい る。 ・服薬の管理も一人ひとりが心がけ行っている。		・理解できていないこともあるので、随時勉強会 を開いていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・職員同士ケアプランの共有を行い、利用者の食事の工夫、散歩・レクへの参加等を促している。 ・水分補給の回数を個々によって増やし、毎日のレクリエーション時の体操、散歩等を勧めている。 ・牛乳を飲んでもらったり、運動・散歩へ出かけたり、腹部をマッサージしている。 ・便秘予防も兼ね、毎日の体操、水分量チェック、散歩等行っている。食事も野菜中心で食物繊維を取り入れている。 ・毎日の散歩や食事、飲み物にも1人1人が配慮している。 ・牛乳を飲んでもらったり、腹圧マッサージをしている。		
76	口腔内の清潔保持 「口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた 支援をしている	・ケアプランの共有、個人記録への記載、職員間の情報交換・申し送りにより利用者個人の力に応じた支援を行っている。 ・全面的に介助が必要な人のみ1対1の介助ができているが、どうしても介助を嫌う方や半分自立型の方に関しての支援ができていない。 ・自立している方には声かけ、支援しないといけない人には支援しながら対応している。 ・毎食後、口腔ケアを実施し、介助が必要な方は、一緒に実施している。 ・1人1人が個人の歯プラシを持ち、介助の必要な人はスタッフと一緒に行く等して、毎食後行っている。		・義歯の方が大半で、なかなかご本人だけでは清 潔が保たれないため、職員間の連携ならびに、よ リ効果的清潔保持のため改善に向けて取り組んで いる。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ケアプランの共有、個人記録への記載、職員の情報交換・申し送りにより、利用者個人の力に応じた支援を行っている。 ・食事以外の時間の水分補給は個々に合わせ、できるだけ多く摂れるうび内容も工夫している。 ・介護記録への記入をする。 ・食事量、水分量を個人記録に記入、栄養バランスが誰が見てもわかるように献立表に食材を記入。 ・栄養士によるメニューチェック、水分量も毎日チェックしている。 ・介護記録にしっかりと書き、状況を把握できるようにしている。 ・苦手な食べ物は他のおかずに変えるなどしてバランスを確保している。		
	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めが あり、実行している(インフルエンザ、疥 癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・施設内研修への参加やマニュアル作成により、職員が把握、実行できるようになっている。 ・インフルエンザの予防接種は毎年行い、手洗い・うがい等も行ってもらっている。 ・マニュアルを作成し、発生時に対応できるようにしている。 ・予防や対応の取り決めを書き出し、誰もがわかる様にしている。 ・予防接種を行う。手洗いうがいを行っている。 ・感染症マニュアルが常にみられるようになっており、また、流行の兆しがある場合は本部よりの資料をもとにミーティングがなされている。 ・研修で学習し、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場として の台所、調理用具等の衛生管理を行い、新 鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・法人栄養士の協力も得て行事・管理を行ったり、法人内の研修の参加をして学習している。 ・食中毒には職員1人1人が気を配り、常に新鮮なものを食べてもらっている。 ・調理用具等は、使用後殺菌用洗剤等で消毒している。 又、直接食材を店へ注文し、新鮮なものを定期的に配達してもらっている。 ・八イター洗浄したり、常に新鮮な食材を使う様心がけている。 ・職員1人ひとりが常に気をつかって食材管理、料理を行っている。 ・専用の冷蔵庫を購入し、生物には日付がわかるようにしてある。 ・夜勤帯にてまな板、布巾、台拭き等の消毒にも努めている。 ・常に食材購入(仕入れ)先と連携をとっている。 ・キッチンハイターで消毒するなど衛生管理に気をつけている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
2.4	2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)	居心地のよい環境づくり			
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親し みやすく、安心して出入りができるよう に、玄関や建物周囲の工夫をしている	・季節の草花や物、行事の写真等を掲示している。 ・安心だけでなく安全な玄関に工夫をしている。 ・スロープ・手すりの設置、又、玄関周りは季節の草花を育て、明るいイメージにしている。 ・今まではオープンに門も開いていたが、現在"帰宅願望"の強い方が入所されており一部門にも鍵がかかっている。玄関にも開くとブザーが鳴るようなスイッチが入れてある場合がある。		・離説の問題があり、門も閉めている状況のため、近隣の人等が出入りしやすいよう考えていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとっ て不快な音や光がないように配慮し、生活 感や季節感を採り入れて、居心地よく過ご せるような工夫をしている	・季節の草花や物、行事の写真等を掲示している。 ・台所とリビングが同一空間になっており、調理の音や話 し声が聞こえる。又、利用者と共に調理出来ている。 ・季節に合わせた飾り物や暖房器具をそろえ、共用空間を よりよくする工夫をしている。 ・場所毎の表記及び案内の表記と、トイレ・浴室等は、設 置で補えなかった部分はカフェカーテン等でプライバシー の確保がされている。 ・毎日掃除を行い、気持ちよく過ごせる様にしている。季節の花を飾ったり、季節に応じた飾り物を作り工夫している。 ・居間で過ごされる時間が多いため、テレビの音量などに も気を配っている。また、利用者の生活写真などを廊でり の目に入る場に掲示したり、季節の作品を展示したりし、 雰囲気作りに心がけている。 ・食堂のテーブルに花を飾るなどして季節感を取り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気 の合った利用者同士で思い思いに過ごせる ような居場所の工夫をしている	・利用者間の交換を大切にし、リビングにソファーを設置したりと工夫している。 ・個室があるので自己決定を大切にしている。 ・個々の様子や3人がけソファー等の設置があり、思い思いの場所や姿勢で過ごせるようになっている。 ・各自部屋があり、独りになれたりリビングに集まり、みんなで過ごせる場所がある。 ・狭い共用空間ではあるが、台所の部分とソファ部分を利用者の方が好きなように使ってもらえるように心がけている。 ・共用空間に広さがないため、一人になれる空間がない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
	居心地よく過ごせる居室の配慮	・本人や家族からの情報や生活暦を参考に、可能な限り工 夫をしている。 ・本人の自己決定を大切にし、使い慣れた物等は自由にし		
	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	でいる。 ・入居時に親しみのあった物を持ち込んでもらうよう説明し、使用してもらっている。又、新品の日用品や家具でなく、中古で親しみのある物をホームでも使用している。・ご家族の訪問がある場合、又、家族通信等を通し、ご家族への呼びかけ、相談に努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・朝の掃除時、又、1日何回か換気に努めている。 ・換気は1時間に1回行ったり、居室では利用者がいない間は窓を開けておくなどの方法をとっている。 ・常に換気には留意し、都度行っている。又、必要以上に室温を上げ下げせず、利用者とも相談しながら調節している。 ・その時々に応じ換気をし、利用者の状況に応じ温度調節をこまめに行っている。 ・朝食前後の居室換気に利用者と共に努めている。		
(2)	★ ↓ の力の発揮と安全を古える環接づ(川			
(2)	(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 身体機能を活かした安全な環境づくり ・古民家改修による施設であり、家族と同様の住まい作り			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	をしている。 ・一部の段差等に関しては工夫し、他はバリアフリー作りにしている。 ・出来る限りのバリアフリーを心掛けた環境になっている。 ・手すりや滑り止めマット等、誰にでも起こりうる事故等に対しての配慮がされており、必要以上に整備されていないことで自立upにつながっていると思われる。 ・手すりをつけている。 ・日中は玄関の出入りもあり、段差をつけているが、夜は		
		取り外し可能な床板を使用し段差をなくしている。 ・危険箇所はバリアフリーにするなどしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・日々の会話や個人記録、個人情報、ケアプランを元に、必要時には家族の協力を得ながら、可能な限り本人の希望・力量に合わせた対応・支援を行っている。・トイレや洗面所等の張り紙をし、自ら見つけ出したり行動したりするよう支援している。・個々の能力を見極め、できることに注目しレベル低下の予防、及びレベル・即を目指している。・洗濯物をたたんでもらったり、お茶をついでもらったり、個人の持っている力を活かしてもらえる様に声かけしている。・居室入り口に写真入表札がかかげてある。・本人に無理のない、出来る範囲での生活を送ってもらっている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・利用者の安全に配慮しつつ、地域の方や馴染みの方からの花の差し入れ等を利用して、利用者が楽しめる環境作りに配慮している。 ・天気のいい日には外でのレクリエーションを行ったりと、敷地内の空間を利用している。 ・庭や畑を利用し、季節に合わせた作業やレクリエーションを行っている。 ・畑仕事をしたり、広い庭でレクリエーションを行ったり、行事を行ったりしている。 ・中庭部分をレクリエーション時、作業時に利用している。 ・庭でレクをしたり、畑で野菜の収穫などしている。		

部分は外部評価との共通評価項目です)

. ਪ	. サービスの成果に関する項目				
項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方 の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない			
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ご す場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない			
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らし ている	ほぼ全ての利用者が 利用者の 2 / 3 くらいが 利用者の 1 / 3 くらいが ほとんどいない			
91	利用者は、職員が支援することで生き生 きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の 2 / 3 くらいが 利用者の 1 / 3 くらいが ほとんどいない			
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている	ほぼ全ての利用者が 利用者の 2 / 3 くらいが 利用者の 1 / 3 くらいが ほとんどいない			
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で 不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の 2 / 3 くらいが 利用者の 1 / 3 くらいが ほとんどいない			
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じ た柔軟な支援により、安心して暮らせて いる	ほぼ全ての利用者が 利用者の 2 / 3 くらいが 利用者の 1 / 3 くらいが ほとんどいない			
95	職員は、家族が困っていること、不安な こと、求めていることをよく聴いてお り、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない			
96	通いの場やグループホームに馴染みの人 や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない			

項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の 2 / 3 くらいが 利用者の 1 / 3 くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービ スにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の 2 / 3 くらいが 家族等の 1 / 3 くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・地域に根ざした施設運営を心がけ、隣接する町内の方々や前山区と一緒に取り組む行事(夏祭り、歩こまいか大会、防災訓練、市民体育祭等)に、利用者と共に参加し、 積極的に存在感をアピールしている。又、家族・ボランティアの協力を得て、らく楽内で運動会、非難訓練、炊き出し、運営推進会議、敬老会やみかん狩り等の行事を行う ことで、信頼関係作りも重視し、住み慣れた町で当たり前の生活を楽しんで頂けるよう支援している。
- ・年金やその人のレベルに応じて、職員が一方的にケアすることなく自立を促し、その人らしさや生活レベルが低下しないよう努めている。
- ・その人の健康状態、病状の変化に応じて関係医療機関との連携を密にしている。
- ・地域住民との関わりを大切にし、行事毎に参加を促し、ホームの状況・利用者の様子を把握して頂き、必要時協力が得られるよう努めている。
- ・職員全員のケアの統一を心掛け、日々の記録・申し送りを充実させている。